



2000年度入試日程

	推薦入試		一般入試	10月入学
	A日程	B日程		
試験日	1999年 11月17日(水)	2000年 3月17日(金)	2000年 2月9日(水)	2000年 8月1日(火)
願書受付	1999年 11月1日(月) ~8日(月)	2000年 3月9日(木) ~13日(月)	2000年 1月12日(水) ~21日(金)	2000年 7月14日(金) ~21日(金)
合格発表	1999年 11月29日(月)	2000年 3月21日(火)	2000年 2月18日(金)	2000年 8月10日(木)

来年度の大きな改正点は3点である。

- ①推薦入試にA日程・B日程を採用した
- ②一般入試と特別推薦で「小論文」を廃止した
- ③推薦枠を従来の5割から7割に広げた

以上3点。“大学受難の時代”といわれている昨今、少子化の波が本学にもジワジワ押し寄せている。受験機会をふやし、幅ひろい選考方法を採用した。

学内人事

採用(1999年9月1日付)
藤村春美 宗教部書記

異動(1999年9月1日付)
出盛多千夫(学生部主任)
事務局総務企画課主任へ
吉濱幸子(事務局総務課書記)
学生部学生課書記へ
城間勉(事務局総務課書記)
教務部入試課書記へ
玉寄勝也(教務部入試課書記)
学生部就職課書記へ

退職(1999年8月31日)
新垣政信(四大設置室事務長)

公開講座の案内

1999年度
10月開講予定の公開講座は次のとおりです。

- 講座名: 英語で読むイエスの生涯
講師: 大城実(総合教育系教授)
- 講座名: 同時通訳
講師: 山里恵子(英語科教授)
宮国薰子(英語科講師)
- 講座名: ドイツ語会話
講師: フランケ・クラウス(音楽家・ピアニスト)
- 開講期間: 1999年10月~2000年2月
- 問い合わせは 総務企画課へ TEL(098)946-1240

事務組織の改変について

1999年8月1日付けで、事務組織の一部改変があった。

学生部学生課が、就職課と学生課に分離されました。兼ねてより、学生の就職に力をいれるという意向を反映しての改変です。きびしい経済状況のなか、短大卒学生の就職が困難な時代にあって、多いに期待されるところです。

また事務局は、財務課・総務課・企画課の3課で対応していましたが、総務課と企画課が統合され、総務企画課と改変されました。これに伴ない、総務課と財務課の位置替えがありました。事務局は2課になります。

編集後記

多彩な活動で、学内外に影響を与えてきた原先生8年間お疲れ様でした。新たなるご活躍を期待します。
10月1日から新学長体制がスタートした。組織改革もあり、学内は新鮮な空気とパワーがみなぎっている。
世紀末の真っ只中、いろんな不安要因と期待感がいりまざる社会状勢は、我がキリ短の中も例外ではない。全教職員の大きな希望と期待を一身に担う新学長体制のスタートである。(H.K.)



学報 第45号

沖縄県西原町字翁長777
TEL (098) 946-1240
FAX (098) 946-1241

編集・発行
沖縄キリスト教短期大学総務企画課
URL: <http://www.ocjc.ac.jp/>



記事内容

- ★学長就任にあたって…学長 神山繁實
- ★感謝に溢れた8年間…原 喜美
- ★沖縄インターナショナル グレート ティチャーズ セミナーに参加して…英語科教授 前里光盛
- ★隨想 一聖書と私…英語科教授 島袋忠雄
- ★台湾フレンドシップキャンプに参加して…宗教部 藤村春美
- ★キャンパスニュース
オープンキャンパス/英語科2年次武島梨世さん全国学生英語弁論大会3位入賞/原前学長特別講演会/新垣勉テノールチャリティーコンサート/1999年度学内

- 研究発表会
★キャンパスライフ
サマー聖書キャンプに参加して…関 晶子/今西理絵子
キリ短に入学して…山内基子
チャンスを見つけたら全力でチャレンジしてみる…小波津悟
- ★がんばってます!卒業生
今が行動の時…浦添市立宮城保育所 宇根明美
志しを果たし教師となって…具志頭小学校 山城桂子
ルーツさがし…NECフィールドサービス㈱ 伊是名かすみ
素晴らしい出会いに感謝…41期卒 勝連文緒
- ★新任教員紹介…保育科助手 大城りえ
- ★1998年度決算報告
- ★寄付感謝報告
- ★同窓会だより
- ★2000年度入試日程
- ★学内人事/事務組織の改変/公開講座の案内



この度、原喜美学長の任期満了とともに、次期学長に選出されたことを光栄に思うとともに、身の引き締まる思いがします。

一沖縄キリスト教学院の歩みについて

沖縄キリスト教短期大学は、創立43年を過ぎ、21世紀という新しい節目の時期にさしかかりました。創立以来本学は、沖縄県下唯一のキリスト教高等教育機関として聖書の教えに基づく普遍的人類愛を基盤に、国際性豊かで平和を造り出す人材の育成を実施することによって、人類の福祉に貢献するという、本学の歴史と伝統形成に取り組んできました。

元学長大城実先生のもとで大学移転の大事業が成し遂げられました。首里から西原へのユニークな設計のキャンパス移転は、本学に新たなイメージを添えました。その後、原喜美学長の2期8年の御在職中にさまざまな新しい教育プログラムが組まれ、実行されました。海外研修、同時通訳者養成講座、コミュニティ・サービス、台湾・フィリピンフレンドシップキャンプ、パングラデシュに寺子屋を贈る運動等のプログラムは、新しい時代に対応するものとして高く評価され、本学に新たな特色を付け加えることになりました。また、卒業生たちが、就職に進学にそれぞれの能力を發揮して、幅広い活躍をしていることも誇りに思います。

一大学の建学の精神について

本学の建学の理念に目を移してみたいと思います。特に、21世紀を目前にしている現代は、理念と哲学の喪失の時代と言われています。1957年に創設された沖縄キリスト教学院は、当時の沖縄の教会指導者達の明確な戦争責任の自覚に立つプロテstant・キリスト教教育の理念を鮮明にしました。聖書の示す普遍的人類愛に裏打ちされた平和主義と国際性を身に付けた人材の育成を目指す、と謳っています。ここで言われているプロテstant的伝統とは、16世紀の宗教改革の系譜に連なるキリスト教の立場であることは言うまでもありません。本学の建学の精神が、どのようなキリスト教の伝統に立つかを明確に表現していると考えます。

聖書が指示する普遍性と共に、固有性ともいべき「沖縄」が置かれてきた歴史的・社会的・政治的・経済的状況を視野にいたれた教育を展開する必要があります。沖縄の被害者の状況のみならず加害者の状況をも押さえて、アジア的視野をもって自らの歴史的使命を自覚したいと思います。この特色を生かして、キリスト教大学ならではの国際貢献を含む教育プログラムの実施が期待されます。

一四年制大学設置について

ここ数年来、設置委員会を中心に取り組んできた四年制大学設置事業は、資金計画の目処付けが



つかないため、開学の公約時期が大幅に遅れていることを、学校を代表して、衷心よりお詫び申し上げます。

多様化する社会の中で、若い人々の教育的要求水準は四年制大学志向へと移ってきました。本学の教育内容の充実と社会的要請を考えるときに、できるだけ早い時期に社会の要請にも応えられる四年制大学が創設できるように学内外の英知を結集し、設置事業を推進する必要があります。そのために理事会の責任ある対応が求められます。また、その目的のために、本学の基礎体力をはかる過去5年間ぐらいの事業実績の検討を実施して、その数値を踏まえて、中長期計画の立案をする必要があります。

一新しい教育問題への対応について

大学大衆化時代の到来とともに、全国的な規模で基礎学力の十分でない学生の入学時代が始まっています。本学では英語科のパワー・アップ講座によってすでにその対応が始まっていますが、学習意欲を引きだすために、この種の施策は、他の科目においても考慮の必要があるようになります。

生活に余裕があってもアルバイトに精を出す学生もいますが、生活に困ってアルバイトをせざるを得ない学生もあります。そのような学生を支援できる体制をできるだけ、より良く整えていく必要があります。大学の使命は建学の理念に基づいて、学生への教育的サービスを提供して、社会的貢献を果たすことにあると考えます。さらに、学生の自己実現を援助するための編入大学の確保、就職先の確保等課題は多くあります。教育職員・事務職員のこれまでのノウハウを最大限に活用し、教育・研究環境をも整えていく必要があります。

一職場環境の整備

学長の重要な仕事の1つは明るく、やり甲斐のある職場環境の確保にあると思います。先が見える希望と喜びと誇りをもって仕事ができる環境が必要です。もし、教員間、事務職員間、また教員と事務職員との間にわだかまりがあるとするならば、それを取り除く環境づくりが必要です。歴代の学長、部署長の先生方もこのことには十分気を配られてきました。今後、このことをますます心にかけて、一致協力して良い環境が維持できるように努めたいと思います。

もう1つ大切なことは、学内がお互いによく見えるということです。透明性が確保されるために、約束事が守られる組織の形成と説明責任の確立が求められます。事柄が民主的なプロセスを経て解決され、委員会の作業が十分尊重される組織でありたいと思います。また、信頼関係が構築できる共同体づくりと共にしていくことを願っています。そのためにお互いの対話の関係が、成立

するようになりたいと思います。また、外部団体とも協力関係を密にしていきたいと思います。同窓会、教会、外国及び国内のキリスト教関係学校、県内諸大学、地方自治体との良い関係を築き、企業の御支援も仰いでいきたいと思います。以上のこととは、新理事会・評議員会にとっても大きな課題であります。

本学はキリスト教の教えを建学の精神とする大学であります。大学の正面にチャペルがあるのは、大学生活の中心が礼拝にあることを象徴しています。礼拝は単に説教を聞くための場所ではなく、異なる意見を持つものが絶対者の前で自らを低くし、自己を相対化する場所でもあります。いわば、本学の学園共同体づくりの大切なハートの部分を担っているわけです。学生も教職員も礼拝への参加を心がけいただけます。心から願っています。

大学づくりは特定の人々だけではできませんし、また、特定の人々のために大学づくりをするので

はありません。本学の教育理念と方針に賛同して入学してくる学生のために、学校全体の力を結集して取り組まなければならない事業であります。歴史の「継承と発展」を目指して、教職・事務員の皆さんおよび内外の関係者の皆さんのお支え、御鞭撻によって微力ながら与えられた職責を全うできるよう尽力するつもりですので、よろしくお願いいたします。

(かみやま・しげみ)

学長就任にあたつて

学長 神山繁實

新学長プロフィール

1936年2月25日生まれ。1964年東京神学大学学院修士課程修了。1980年ウェスタン神学大学学院修士課程修了。1995年サンフランシスコ神学大学大学院博士課程修了。(神学博士)専攻は組織神学。1969~93年まで宮古島伝道所牧師、読谷教会牧師を歴任。1993年4月より、本短大総合教育系教授。宗教部長。『カルヴァンにおける希望の概念』をかわきりに、論文多数。特にカルヴァンの神学とカルヴィニズムが研究のテーマであるが、途上国の状況と神学にも深い関心をもつ。

感謝に溢れた8年間



前学長 原 喜美
本学名誉教授

幸いなことに私は、8年間をこの西原の丘の上で、毎日生きる喜びに満たされて過ごすことができました。8年間に3,000名を超える学生さんと出会い、常に100名以上の常勤・非常勤の教職員の皆さんと共に働くことが出来ました。本当に感謝の至りであります。

この西原は、沖縄戦の激戦地であったところで、この丘の上で亡くなられた多くの方々のことを覚えて言葉もありません。胸がいたみます。その後追いはぎが出る程寂しいところであったようですが、今は中世僧院のようなそして琉球王宮のようなカリ短城がそびえ立っていて、志のある若い学徒が真理を追いかけて集う魅力ある学びの場となりました。

何故私のような縁もゆかりもないものが、ここに遣わされたかという疑問は、8年たっても解けません。きっかけを作って下さったのは、カリ短の保育科の喜友名静子先生で、先生を通して神様の御招きがあったことを、私は一生の幸運と深く感謝申し上げます。

就任もない頃、桜美林大学の清水畏三理事長から「原さん死ぬんじゃないよ」というご注意を受けました。どういう訳で先生が仰言ったのか分かりません。私が自殺しそうな様子であったとは思えません。恐らくうちなんちゅうでもない、牧師でもない平信徒の私が重責を負って四苦八苦している様子をごらんになってそう仰言ったのだと、

先生のお言葉をかみしめて生きて来ました。清水先生は「何か東京でしなければならない事がある時は、桜美林を使って下さいよ」とご親切な申入れをして下さいました。

この学院では絶えず900人内外の学生が互いに相手の幸福を祈りつつ他者と助け合って、楽しい学園生活を送っています。私共の教育方針はあくまでも、「学生第一」であります。学校は学生の為のものであります。学生1人ひとり、若き日から神の祝福を受け、自主的にその人間形成の為に全力を尽すことができれば幸いです。私自身若い時から過ごして来た多くの学校が皆そのようであつたので、今の学生さんにもその喜びをわけて、本当にカリ短に来てよかったです。しかし仲々それは困難なことで、いつもその通りにはいきません。しかし最近素晴らしい卒業生に巡り会いました。彼女はカリ短を卒業以来、勉学の念やみがたく、幼児教育を開拓していくこと、保育科を卒業したにもかかわらず、語学習得の必要性を感じて、単独で英国に留学して、Cambridge大学の英語の資格を習得し、英語科第3年次編入の力を養い編入試験に挑戦しています。彼女は常にExcellenceを目指し、カリ短在学中には、海外の研修にも参加し、ある時はパングラデッシュに、又ある時は、フィリピンへと、学習の範囲を拡大して、「自らのもとめるものは何か?」を広く探求して来ました。この方の例をみても分かるように、大学のカリキュラムや課外活動等に、きめ細かく、多彩に、興味をそそる内容が盛りこまれてあれば、学生はそれに啓発されて、それぞれ真理を追いもとめて、自ら発見していく事が出来ると思います。短期大学は学生を鋳型にはめないで、流動性柔軟性をも

たして、学びの場を提供することが重要であると、反省いたします。このように感性・知性・品性・靈性が高められ、all-round personalityが形成され、思考力、判断力が充分つくようになることがもとめられています。

本学のオフィスの職員の方々の働きぶりをみてても、物事を本気でとりあげ、単にテーゲー主義で、通り一辺にやり過すのではなく、心をこめて本当の仕事をしっかりと遂行されている人々に出会い、頭が下がります。

今夏も「平和をもとめて」学生と共にアジアに出掛けようとしております。本学では宗教の時間「よき隣り人」になり度いと、あれもこれも祈りをあつくして来ました。しかし、果して近隣の国々に対して、「よい隣国」であるかどうか深い反省

がもとめられます。

私は今、自然の災害などで困難な状態にある北朝鮮に対して何ができるか考えています。皆さまご記憶のように、阪神大震災の時は、わが国と正式外交関係が成立していないにもかかわらず、早速救援の為に募金をして下さった事が想い出されます。

さて私も8年1日のごとく永い年月を、沖縄で過ごさせていただき、大きな恵みを受け感謝いたします。これからも、私達が愛してやまないこのキリ短が四年制大学に成長発展するよう共に支えていきましょう。私が皆様から受けた数々の恵みに対して心から御礼申し上げ、筆をおきます。

(はら・きみ)

第1回 沖縄インターナショナル グレート ティチャーズ セミナーに参加して

英語科教授 前里光盛

今年の3月、ハワイ大学並びにハワイコミュニティカレッジのご協力を得て第1回沖縄インターナショナル グレート ティチャーズ セミナーが、名護市・いこいの村で開かれた。これは、沖縄女子短期大学と沖縄キリスト教短期大学との共催プロジェクトであった。本学のジェイムズロス先生を中心に英語科スタッフが準備を進め、県教育庁や多くの教育関係団体のご支援を得て実施された。感謝である。

セミナーの基本的なねらいは、いろいろな分野の教師が、教育上直面する諸問題について情報交換や討議することによって、教育方法並びに技術・態度等を学び合い、各教師の内なる“グレート ティチャー”を引き出すことである。

幸いに今回、ハワイ大学リーワード コミュニティカレッジの心理学教授ラリー フジナカ博士をお招きすることができた。10年以上も前にハワイ グレート ティチャーズ セミナーを始められた方である。

セミナーでは、多くの教育的に重要な課題について話し合う事ができ実に有益であった。中でも、最も興味を覚えたのは、ある教授が手紙による学生の動機づけを実践している事であった。同教授のクラスでは、学生の最初の宿題は次の事項、①学生の責任、②学生の“内なる教師”的評価、③力の場（フォース フィールド）を含む手紙を書くことである。

学生の責任の中には、遅刻、欠席しないという基本的な事から、クラスの活動に積極的に参加する等が含まれる。さらに、授業とアルバイト、その他を含む一週間の綿密な時間割を提出させる。なお、週に10~20時間も働く学生は、9~12単位以上の登録を認めないとしている。

1人の学生の中に“内なる教師”と“内なる生

徒”的存在を想定し、13項目について学生の持っている“内なる教師”的能力をA, B, Cで自己評価させる。例えば、図書館で必要な参考書を検索する能力やリサーチ ペーパーを完了する為の計画を立てる能力なども評価の対象となる。自分を客観的に評価させ、弱点を自覚的に克服させる適切な方法であろう。

最後に、力の場についての考え方も面白い。あなたに対してある種の積極的な力と否定的な力が作用しているとする。今、あなたの行動を変えようと思えば、異なる場を創造できるようエネルギーを注がねばならない。1つは、積極的な力を強化すること。2つは、否定的な力を除去するか、最小限にするかである。つまり、学習活動を否定する諸要因を除去し、学習を開始するか、または継続するストラテジーを考えさせるのである。

中間試験の後、学生は約束をどの程度守れたか、もう一度手紙を書かなければならない。このように学生が手紙で約束した事を守り学習するならば、実社会の中でもきっと立派に生きていくに違いない。本学でもこのような方法を既に応用された教師もおられる。

来年の3月にも第2回セミナーが計画されている。多くの先生方と共に学べることを期待しています。

(まえざと・こうせい)



聖書と私

英語科教授 島袋忠雄

洗礼を受けた訳ではないが、どういう訳かいでもキリスト教的雰囲気の中にいる自分に気づく。それで、多少なりとも聖書との関わりを持つようになってからの年月は長い。

事の起りは戦後すぐの、郷里の宜野座の頃に遡る。村に教会がなかったので、となり村から伊波盛次郎氏（現小禄バプテスト教会牧師）が出向いて日曜学校を開いておられた。

クリスチャンだった父が伊波先生と親しくしていた関係で、我が家には聖書や讃美歌など、先生の蔵書のコーナーがあり、子供心にもそこだけ神々しく輝いているような気がしたものだ。

ときどき父に連れられて集会に参加した。伊波先生の話は臨場感にあふれ、興味尽きなかった。獅子の谷のダニエル、大きな魚に飲み込まれたヨナ、それに新約のイエスの誕生と東方の三博士の話等々、胸を躍らせて聞いた。

時移り、後年、東京のキリスト教系の大学院で学ぶことになった。キャンパス内の神父館に入りしているうちに各国語版の聖書を目にした。この事にヒントを得て、その後、新しい外国語を学ぶ際に手っ取り早く入手できるテキストとしてバイブルを利用する事にしている。

本稿を草するに際し、書庫を漁っていたら亡き父の愛用していた新約聖書が出てきた。いつのまにこんな所に紛れ込んだのだろう。表紙も文体も古色蒼然としているがなんとも名状し難い風格を備えている。宝島の地図を発見したかのような気分に暫しひたった。

この地図を手がかりに、今後、折りを見て、宝探しの旅に出かけるようにしたい。

(しまぶくろ・ただお)

台湾フレンドシップ・キャンプに参加して

宗教部 藤村春美

8月20日から30までの10日間、学生10名、教職員4名、アシスタント1名の15名が台湾フレンドシップ・キャンプに参加しました。

「台湾原住民の文化と歴史を学び、交流を深める」ことをキャンプの目的とし、台湾原住民9部族の1つである布農（ブヌン）族を訪問しました。私達は1週間「布農部落」に滞在し、お年寄り、青年達、子供達など多くの方々と交流を深めました。「布農部落」は資本主義社会の中で崩れてしまった原住民の生活を回復し、これからを豊かにしていくために建てられた文化センターで、白光勝牧師を中心に行なわれています。まず、お年寄りとの交流では、一方的に日本の統治下に置かれ、自分達の文化や言葉を奪われ、あげくの果て「日本語をきれいに話せない」と虐待された日本の統治時代の話を聞きました。お年寄りの話された言葉の重さと過去の事実に心を痛めつつ、私達がこれからどう関わっていくのかを考えさせられた時でした。

力強い動きと独特なハーモニーが印象的だった布農族に伝わる歌や踊り。1日2回行われるショーの中で踊る青年達の部族や文化への誇りを感じながら、私達も練習を積み重ねてきたエイサーを踊り、沖縄の文化を紹介しました。また、時間を見つけては青年達といろいろなことを話し、「布農部落」のこれからを担っていく青年達の思いを聞くことができました。滞在中の毎日の活動を通して、青年からお年寄りまでが自分達の民族を誇り希望を持って生活していることを知ることができ、「Hope Village」と呼ばれている「布農部落」の働きの意味を知ることができました。

27日からの3日間は台北で過ごしました。故宮博物館に出かけたり、街を歩き、布農とは違う雰囲気の台湾を楽しみました。日曜日には阿美（アミ）族の教会も訪問しました。部族によって言葉や文化は異なりますが、共通していることは“自分達の持っている文化や言葉への思い”で、礼拝の中でも部族語（アミ）での讃美が歌わっていました。また、キャンプを行なうためにいろいろと配慮して下さった台湾基督長老教会の総会本部を訪ね、私達が経験したこと、感じたことを幹事の方々と分かち合う時を持ちました。

台湾で過ごした10日間、今年も様々な出会いと経験を通していろいろなことを知り、感じ、考えることができました。少数民族という立場の中で自分達の持っている文化に誇りを持ち、心豊かに生活している原住民の方々に出会い、私達の生活の中では忘れてしまっていた“心の豊かさ”を感じることができました。沖縄に帰ってからの生活の中で、これから台湾との関わりの中でそのことを覚えて歩みたいと思います。また、このキャンプで与えられた多くの課題（キャンプと台湾の関わり、言語の必要性等）を考え、来年に向けて取り組んでいきたいと思います。

最後に、このキャンプを行なうにあたって大きな力を貸して下さった方々、滞在中活動と共にしてくれた台湾の方々、キャンプのメンバーに心から感謝いたします。

Wu Ni Nang (布農語で「感謝」の意)





CAMPUS

キャンパス ニュース

NEWS

オープンキャンパス

あの恒例のオープン・キャンパスが、今年度も大盛況のうちに終了した。7月10日(土)と9月11日(土)の2回、それぞれ約200名の高校生・社会人が参加した。本短大あげての多彩なプログラムは、いつものキャンパス以上の華やいだ雰囲気のなかで、手応えあるオープン・キャンパスで



あった。内容は、学科紹介・模擬授業・学内見学・入試相談・ビデオ上映等々、キリ短のことなら何でもありのプログラムである。

アンケートによると、ほとんどの参加者が「キリ短に惚れ直した」という回答が印象的だった。

英語科2年次武島梨世さん 全国学生英語弁論大会3位入賞

毎日新聞社主催、第53回全国大学対抗英語弁論大会が7月17日(土)東京で開催された。同大会は、1947年にスタートし、日本で最も伝統ある英語弁論大会である。全国5地区の代表20名が出場し、英語力を競った。

武島さんは、西部地区大会で優勝し、宮崎国際大学の小森ゆきさんと共に地区代表として全国大会に参加した。優勝は、富山医科薬科大4年の田中耕一郎さん。テーマは「医学部における倫理教育の重要性」。我がキリ短の武島さんは「The Strength within Us」(内なる力)のテーマでスピーチした。現代の若者たちに、自由行使するとは、一人ひとりのうちにあらう「自律」が必要であることをうつたえた。



キャンパス ニュース

原前学長特別講演会

1999年9月30日をもって任期終了となる、原喜美前学長特別講演会が7月22日(木)チャペルにおいて開催された。タイトルは、「恒久平和を求めて—終わりなき旅。」1階会場がほぼ満席になる盛況ぶりであった。

内容は、聖書のことばの「善をもって悪に勝ちなさい」、「あなたの隣人を愛しなさい」の両聖句を引用しつつ、体験とともに、平和をいかに考え、実践していくかをうつたえた。

積極的に隣人を愛すること。それは身近な沖縄に平和を創りだすことであり、ひいては世界平和へつながっていくことである。またそれは国際貢献することであると、一貫して平和の問題をグローバルな視点で実践してこられた原先生の姿勢が伺われる講演会であった。



「キリ短にパイプオルガンを贈る会」主催

新垣勉テノール チャリティ・コンサート

1989年、西原キャンパス移転とともに、新設なったチャペルにパイプオルガンを贈ろうという運動が、各教会関係者の方々を中心に関成された。

以来、10年間さまざまな活動を行なってきました。今回は、アメリカをはじめ、全国各地で多くのコンサート活動をおこなっている、音楽伝道者の新垣勉さんを迎えるました。6月25日と28日、楽しいトークと素晴らしいキリストの福音の歌に感動した2日間だった。



1999年度学内研究発表会

今年度は6月19日(土)、6名の方が研究発表をおこなった。発表者と内容は、以下のとおり。

島袋忠雄：「The pen is mightier than the hammer
—Oliver Wendell Holmes and his constitution—」

大城りえ：「男女大学生の親準備性と子ども観発達期待」

上原明子：「大学における日本語学習支援システムについて」

新川右好：「Theodore DreisenのAn American Tragedyに関する1つの考察」

C.K. Jacobsen：「Academics as Transnational Actors for Peace」

L.E.Allison：「Comparison of Initial Selection and Placement Testing Factors Leading to Student Placement in the OEC Classroom」



キヤンパスライフ

サマー聖書キャンプ。

聖書キャンプに参加して



保育科1年 関 晶子

考えさせられること、考えねばならないことが多くあった。「命どう宝の家」の謝花悦子さんの話しさは深く重かった。“愛情があれば戦争はない”ということ。“戦争は今も続いている”ということ。“これから世界が私たちの肩にかかる”ということ等々。謝花さんが私たちに投げた期待というボールは大きかった。それを真剣にうけとめたい。

実り多きキャンプに参加して



保育科2年 今西理絵子

今回、“サマー・バイブル・キャンプ in 土の宿”に参加し、感じたことは、命の尊さと、弱者をいたわる心でした。

老人ホームでの交わりは、私の中で大きな第一歩になった。おじいやおばあの“ありがとう”は、どんなありがとうよりもあたたかい。涙ができるくらいに心がある。たくさんの出会いがあった。皆のいい笑顔があった。ありがとうを言うのは私の方だ。

このキャンプ全体を通してみると、とても意味深いものだったと思う。多くのいろんな人と出会い、寝食を共にすることの大切さ。また、福岡の方との交わり。その背景には、2つの大学の厚い歴史が重なりあってるんだということ。

「土の宿」の木村浩子さんとの交わりもとてもうれしいものだった。『土の宿物語』を読んでから、ぜひお会いしたいと願っていた。木村さんとの握手を忘れない。土の宿のあたたかさを忘れない。土の宿で出会った1人ひとり、すべて私の中の大切な出会いとなり、パワーになった。

いろんな生き方がある。いろんな生き方をしている人たちがいる。いろんな出会いがあり、いろいろ感じ見ることができたキャンプでした。

まず、特別養護老人ホーム「いえしま」でのボランティア活動として、入浴後の介助や個人対応等を体験することができました。そんな中で学んだことは、言葉かけです。言葉かけをすることにより、お年寄りの心を和らげ、すんなりとコミュニケーションをもつことができました。

また、「命どう宝の家」の謝花悦子さんから戦争の体験談を聞きました。平和とは何かを考えさせられた。それは、私たち1人ひとりが団結して戦争をおこさないように努力することが大事だということであった。自分自身をふりかえり、自己中心にならないよう気をつけていかないと深く考えさせられた。

このキャンプでは、このようにいろんな体験ができます。みなさんも是非、参加してみてください。実り多きキャンプになると思います。

キリ短に入学して



英語科2年次 山内 基子

いったん、社会に出た。もう一度勉強をしたいと志した時、社会人推薦入学制度を設けている大学は、大きな希望を与えてくれます。そう、キリ短のように。今から2年前の10月、私も1人の社会人としてこの短大に入学しました。もう卒業の時を迎えようとしています。もともと、英語が好きでした。しかし9年間というブランクは大きい。大きな不安を抱えての入学でした。それに加えて、看護婦として夜勤をしながら学業と両立させていくるかども大きな課題でした。

チャンスを見つけたら全力でチャレンジしてみる！



保育科2年次 小波津 悟

私は4年前、沖縄に来ました。その1年後、どうしてもこの島でくらしたいならまず日本語が必要と思い、琉球大学で科目生として日本語の勉強を始めました。父親であり、夫であり、そしてペルー出身日系人である。日本語を話せるだけでは生きていけないと感じ、2年前、キリ短で勉強するチャンスを得ました。以前から私は、人と接することが好きで、弱者の立場に立って考え、手助けできることを常々考えていて、保育科へ進学することに決めました。

高校を卒業し、幾年かが過ぎて、家庭をもち、働きながら、日本語の勉強だけでなく、日本の

した。さて、このキリ短には家庭を持ちフルタイムで働きながら勉学に励む者もいる。実際、想像していた華やかな大学生活とは異なり、沢山の宿題やテストに追われるハードな日々でした。大学では自主的に勉強に取り組んでいかなければなりません。勉強の術すら知らない私にとって、最初の頃の授業は無我夢中で、決して楽しいとは言えませんでした。しかし、学ぶ事の必要性や楽しさを理解してもらおうとする先生方の熱心さが伝わり、勉強への取り組む姿勢が変わってきました。能力への挑戦より、むしろ自分の精神に対する努力の方が必要だと感じました。社会人として生活てきて、知らない事がが多い事も痛感しました。知らない事が恥ずかしい事ではありません。新しい気付きこそが自分を発展させる上で大切な事だと思います。社会人がもう一度学校に戻るということは、様々な人生経験を更に生かすことが出来、これから後の人生を豊かにすると思っています。このキリ短で充実した時間を過ごせた。嬉しい。

子供や日本の社会福祉を勉強することが私にとって、最大のチャレンジでした。

あれから2年が立ちました。いよいよこの9月に卒業を迎えるとしています。この2年間を振り返ってみるととても短いと感じます。特に、仕事や家庭でいつも時間がいっぱいでした。しかし、先生方の指導とアドバイスや事務の方々のおかげで、自分の日本語力もアップすることができました。そして何よりも、自分の進む方向が見えてきました。

チャンスがあれば、全力でチャレンジしてみる！キリ短がこの私に勉強するチャンスを与えたことで、私の歩む道も見えてきました。そして夢を達成するまでけしてあきらめない。色々なことをチャレンジしていくうちに、色々なトラブルがあらわれる。しかし乗り越えようという気持ちがあれば、絶対その夢を実現することができる信じています。

2年間、指導をしてくださった先生方や事務の方々、そして、学友のみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。心から本当にありがとうございました。



がんばってます！卒業生!!

1957年創設以来、8,000人余りの卒業生を世に送り出してきました。各分野でパワフルに活躍している卒業生ですが、どなたにも、伝統の“キリ短スピリット”が脈々と受け継がれているのが感じられます。これから益々のご活躍を期待致します。



今が行動の時

浦添市立宮城保育所 宇根 明美

夏真っ盛り、朝早くから保育所の庭は蝉の声でにぎわい、捕虫網を手に子供達は蝉とりに夢中です。小高い傾斜地の南斜面に立てられた私の職場宮城保育所は、前方が開けていて見晴らし良く、庭にはユウカリフトモモ、ホルトの木が両脇にあり、朝日と西日をうまく遮り木陰を作ってくれています。昔の子供達のように裏山に駆け登り、たんぽでフナ取りと野に放たれた遊びができない環境の今の子供達にとって、保育所の園庭は人の手で守り育てられたとはいえる自然を体験できる大切な場所です。

平成2年に保育所保育指針が改定され、主体性を持った子供を育てる為に、保育者中心の保育から子供中心の保育へと変革が求められました。発達初期における人間関係のあり方が、子供の主体性、意欲の育ちに大きく影響があると

言われ、その初期に関わる保育者として私達に求められることは何か、と常に自分自身に問い合わせながら仕事をしています。

地域社会の子育て環境がやせ細っていく中で、入所していく子供達も年々変化しています。少子化が進む中、子育て家庭を支援するという新たな役割も据えられてきました。今、私達保育者に求められることは、社会の変化を見据える目と、人の心を敏感に感じ取る感性豊かな心ではないでしょうか。

大学で学ぶ若き皆様へ伝えたいこと。様々な体験にチャレンジし、自分の持つ感受性を更に豊かに磨いていただきたい。人は親に育てられたように子を育てると言われ、自分の体験したことを無意識に人に施そうとします。野に遊び、地を耕し自然にふれ、その地の文化に親しみ楽しむ。その人の幅広い体験は感動する心を育ってくれ、更に次なるチャレンジ精神を引き立ててくれることでしょう。心しなやかで体彈ける若い皆様、今が行動の時。何が好きなのか、自分に問いかげ始めてみよう、続けて行こう、明日は大きく広がっています。皆様のご活躍を祈ります。

(13期保育科卒業)



志しを果たし教師となつて

具志頭小学校 山城 桂子

わたしがキリ短を卒業して、早10年、新キャンパスへ移転しての最初の卒業でした。移転したばかりの西原キャンパスの新しい匂いがなつかしく思い出されます。

私は短大卒業後、小学校教諭の道を志し、今年念願かなって新規採用となりました。今年は新規採用者研修でかなりの忙しさですが、いろんな人の出会いやたくさんの研修を楽しみながら毎日を過ごしています。学校では5年生を担任し、キラキラした子供達の瞳とともに勉強やスポーツにがんばっています。時には子供達に困らせられることもありますが、屈託のない笑顔を見ていると、子供達のために何かをや

なければという気持ちになります。子供達を指導していくために、自分自身を高め、見聞を広めていこうと考えています。

また、2002年からは新学習指導要領が施行されることになっており、完全週休二日制と、新しい教科として総合学習などが導入されることになっています。来年度からは一部前倒しで総合学習がスタートすることになっており、そのための学習会をしたり、前準備をしたりしています。新しい学習が始まるため、暗中模索の中にあります。多くの先生方と知恵を出し合ってがんばっていきたいと考えています。

時間はかかりましたが、私はやりたいと思ったことをやりとげきました。これからが教師としての始まりですが、自分の意思を通してよかったです。これまでの経験を生かしてすてきな教師になるように努力していきたいと思います。みなさんもやりたいと思ったことをやりとげてください。必ずできます。

(32期保育科卒業)

Challenge Yourself (下)



ルーツさがし

日本電気フィールドサービス(株)
伊是名かすみ

昨年に引き続き、今年もスイス・ジュネーブで開かれた国連先住民族作業部会に参加しました。毎回テーマが決められているのですが、私達が共通して世界にアピールしていることは…
① 武器を持たない平和な琉球王国が1879年一方的併合を受け、その後の日本への同化政策などで、主権・言語等を奪われた事。
② 若い世代の沖縄歴史への認識の薄さ（学校教育の在り方）

日本政府の戦前・戦後にわたる同化政策の一環である標準語励行、特に学校現場で用いられた、いわゆる「方言礼」で自國語（ウチナーグ

チ）=野蛮な言葉=方言蔑視という意識を植え付けられ、それが沖縄文化の否定につながり、子供達に劣等感を植え付けていきました。その子供達も親となり、子孫を増やしていく中で、子供の頃に植え付けられた琉球と日本の狭間で生まれた劣等感、禁じられた言葉、そして封印せざるをえなかった琉球人たるアイデンティティをどんな風に次の世代に伝承したのでしょうか？

自分も含めた若い世代の中に、先人（琉球人）への誇りや、いま沖縄が置かれている状況に疑問を感じる心が薄れつつある危機感を感じます。外国語を学ぶこと、子供達に接すること、基本の部分に自分の生まれ育った土地のしっかりととした歴史認識を持つことは、これから皆さんにとってすごく重要な事だと思います。

あなたのルーツを見つめることは、自分を見つめる事につながります。「大きな世界に開かれた小さな学校—キリ短」たくさんの可能性を秘めた皆さんの土台のグレードアップに「ルーツ（歴史）認識」を加えてみてはいかがでしょうか？

(33期英語科卒業)

素晴らしい出会いに感謝



41期保育科卒業 勝連 文緒

在学時代を振り返り、新入生オリエンテーション、七夕祭等のキリ短の独創的な行事や勉強にサークル活動に励んだ。そして、いろんな事にチャレンジした事、沢山の思い出が鮮明に脳裏に浮かぶ。

入学した時、私自身、難聴障害というハンディキャップを持ち、「キリ短で2年間やっていくだろうか」と大きな不安を抱えていた事があった。私は、そのハンディキャップを乗り越えようという強い気持ちを持って、専門的な知識や学問にチャレンジし、勉強に励んだ。講義中は、友人に迷惑かけたくない一人で努力してきた。

勿論、聞き取れない時は、友人達に教えてもらう事が多かった。とても有り難かった。

私にとっての思い出は、多くの人達や子供達に出会った事。新入生オリエンテーションキャンプに行った時、いろんな個性を持った人達や先生方に出会い、楽しく自由な交流に触れ、そして、多くの友人が出来た事が何より嬉しかった。又、実習の時も子供達の素直さや思いやりに触れたり、子供達から学ぶ事が多かった。保育現場の指導の在り方やアドバイス等保育という場所や場面で多くの人達に出会った事が自信になり、1つ1つのハンディキャップの壁を乗り越えられたという実感が沸いた。在学時代は、多くの友人達に恵まれ沢山の素晴らしい出会いによって、楽しく充実した生活が出来た。

キリ短は、素晴らしい出会いや沢山の事にチャレンジする機会を与え、私を大きく育ててくれた。1つ1つの出会いが自信につながり学ぶ事が得られる。そして、楽しいという充実感や交流が広がる。それがキリ短と言えるでしょう。

今までの出会いを大切にして広い視野を見つめ前向きに頑張って行きたい。



新任教員紹介

夢に向かって

保育科助手 大城 りえ



みなさん、こんにちは。私は4月に、ここ沖縄キリスト教短期大学保育科の助手に採用になり、心理学に関する講義を担当しています。

私は小学校の時から、学校の先生になることが夢でした。しかし、夢を叶えるためのその道は平坦ではありませんでした。自分はいつまでたっても先生になれないのではないか、先生になることを諦めて、何か他の仕事に就こうかと考えたこともあります。でも、悩み考えた結果、やはり先生になりたいというのが私の答えでした。今キリ短の教員としてみなさんとともに過

ごせるのは、小学生の時からの夢をあきらめることなく目指し続けたからだと思います。私は夢を叶えることができました。そして今は、新しい夢に向かって歩み始めています。それは、みなさんに心理学を通して自分のことを良く知つてもらい自分自身のことを好きになってもらうこと、そしてこれから親としてあるいは教師(保育士)として出会うであろう子どもたちの心の声を感じることの出来る人になってもらうということです。私もみなさんとの出会いを通して、先生として、1人の人間として成長していきたいと考えています。

夢が叶う人もいれば、その夢が叶わない人もいるでしょう。でも夢に向かって歩き続ければ、自分の中に新しい力が生まれます。その力があれば、また新しい夢を見つけることができます。夢に向かって歩み続ければ、自分らしい人生を手にすることができます。一緒にその夢に向かって歩いていきましょう。

1998年度決算報告 消費収支計算書

1998年4月1日～1999年3月31日まで

(単位：円)

消費収入の部			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
学生生徒等納付金	702,270,000	702,548,800	△278,800
手 数 料	20,400,000	21,128,850	△728,850
寄 付 金	22,000,000	25,125,191	△3,125,191
補 助 金	117,947,000	132,371,576	△14,424,576
資 産 運 用 収 入	8,300,000	8,434,078	△134,078
資 産 売 却 差 額	7,577,000	7,576,928	72
事 業 収 入	2,826,000	2,551,034	274,966
雑 収 入	6,525,000	6,642,976	△117,976
帰 属 収 入 合 計	887,845,000	906,379,433	△18,534,433
基 本 金 組 入 額	△123,157,000	△131,607,483	8,450,483
消 費 収 入 の 部 合 計	764,688,000	774,771,950	△10,083,950

消費支出の部			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
人 件 費	548,884,000	542,823,789	6,060,211
教 育・研 究 経 費	246,835,000	242,809,373	4,025,627
管 理 経 費	42,346,000	38,512,311	3,833,689
借 入 金 等 利 息	28,120,000	28,119,952	48
予 備 費	(600,000)		
	4,400,000	4,400,000	
消 費 支 出 の 部 合 計	870,585,000	852,265,425	18,319,575
当 年 度 消 費 支 出 超 過 額	105,897,000	77,493,475	
前 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	401,775,000	401,775,773	
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	507,672,000	479,269,248	

寄付感謝報告

募金へのご協力ありがとうございます。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

指定寄付 (1999年1月1日から1999年7月31日まで)

個人 6,778,742円 団体 7,137,334円 合計 13,916,076円

四年制大学設置資金

【父 母】

伊 波 城	善 照	弘 雄	3,000
儀 山	增 哲	照 砂	5,000
荷 川	取 真	正 嗣	5,000
當 翁	長 長	利 上	5,000
友 井	瀬 與	長 嶋	5,000

伊 良 良	哲 和	正 郁	一 勝
荷 川	取 真	利 上	長 嶋
當 翁	長 長	長 嶋	長 嶋
友 井	瀬 與	與 久	與 久
伊 良 良	良 長	利 島	利 島

荷 川	當 翁	友 井	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	良 長
友 井	伊 良 良	良 長	當 翁
伊 良 良	當 翁	伊 良 良	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁

伊 良 良	當 翁	友 井	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁
友 井	伊 良 良	伊 良 良	當 翁
伊 良 良	當 翁	伊 良 良	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁

伊 良 良	當 翁	友 井	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁
友 井	伊 良 良	伊 良 良	當 翁
伊 良 良	當 翁	伊 良 良	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁

伊 良 良	當 翁	友 井	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁
友 井	伊 良 良	伊 良 良	當 翁
伊 良 良	當 翁	伊 良 良	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁

伊 良 良	當 翁	友 井	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁
友 井	伊 良 良	伊 良 良	當 翁
伊 良 良	當 翁	伊 良 良	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁

伊 良 良	當 翁	友 井	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁
友 井	伊 良 良	伊 良 良	當 翁
伊 良 良	當 翁	伊 良 良	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁

伊 良 良	當 翁	友 井	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁
友 井	伊 良 良	伊 良 良	當 翁
伊 良 良	當 翁	伊 良 良	伊 良 良
當 翁	友 井	伊 良 良	當 翁

伊 良 良	當 翁	友 井	伊 良 良

<tbl_r cells="4" ix



大城 真弓	20,000
新里 栄子	20,000
根原 優子	30,000
崎原 工ミ子	35,894
玉城 武子	100,000
長川 满子	1,000,000
浜嶺 智恵	1,000
満井 裕美子	2,000
中宮 村奈苗	2,000
城安 部諒子	3,000
赤嶺 垣桂野	3,000
匿名者3人	3,000
古謝 李奈美	5,000
城間 幸美	5,000
杉元 亜矢子	5,000
喜友名 裕子	5,000
新垣 きみえ	5,000
森田 苗子	5,000
新垣 結香	5,000
安里 むつみ	5,000
知念 菜都子	5,000
吳屋 恵梨子	5,000
崎伊 波綾乃	5,000
比高 有理香	5,000
池嘉 沙智子	5,000
金城 たか子	5,000
金城 須賀子	5,000
金城 賴子	5,000
金城 理沙	5,000
幸喜 綾	5,000
【在学生】	
玉城 洋平	500
臨床心理学演習クラス	1,000
【宗教関係】	
比嘉 憲信	1,504
山田 慎子	5,000
風間 征子	10,000
遠藤 富美子	70,000
遠藤 明雄・佐藤三枝子	10,000
比嘉 アキ	10,000
大城 幸子	10,660
折田 政博	51,418
大森 泰夫	100,000
加古川東教会	3,000
馬天キリスト教会 (KGKOキリスト者学生会沖縄)	3,000
沖縄キリスト教センター	5,000
西原教会	5,000

上地教会	10,000
相愛幼稚園	10,000
ぎのわんセミナー・ハウス	10,000
沖縄アピーフ福音センター	11,301
キリシム宗教委員会&IOC	21,000
平良川伝道所	49,000
モリス・セルロ	
沖縄大会実行委員会	50,000
読谷教会	25,033
佐敷教会	10,000

【一般】

有銘 宏司	300
溝井 洋輔	10,000
溝井 武実	10,000
知花 康仁	10,000
山田 珠江	10,000
嘉数 昇明	30,000
桂正子	50,000
渡久山 朝裕	50,000
桂 昭	100,000
仲本 正真	100,000

【学内関係】

永井 淳裕	1,000
伊敷 和枝	10,000
伊波 健二	50,000
金城 重明	43,000
仲真 良哲	18,000
眞良 哲	23,104
與儀 千代子	20,000
比嘉 京子	150,000
新町 田妙子	5,000
知花 阿佐子	40,000

【教職員】

比嘉 國郎	1,071,702
前里 光喜	562,881
山里 盛子	80,000
神山 恵繁	130,000
山原 實治	30,000
比嘉 健次郎	73,079
比嘉 健次郎	80,000
山城 真紀子	50,000
神山 美代子	15,000
漢那 憲治	15,000
与儀 勝彦	3,000
宮国 薫子	9,000
宮元 和子	9,000
伊波 智子	12,000
柳澤 千恵子	50,000
神里 博武	20,000

【企業・団体】

みつる保育園	30,000
豊見城中央病院	1,000,000

施設設備

和田新之助(一般)	50,000
大城 実(教職員)	90,000
神里 博武(ク)	25,000
漢那 憲治(ク)	25,000
柳澤千恵子(ク)	7,000
沖縄キリスト教	
短期大学後援会	5,300,000

奨学金

松島 寛容(一般)	240,000
稻福 盛輝(教職員)	50,000
三協電気工事株式会社	60,000
沖縄キリスト教短期大学後援会	300,000

その他

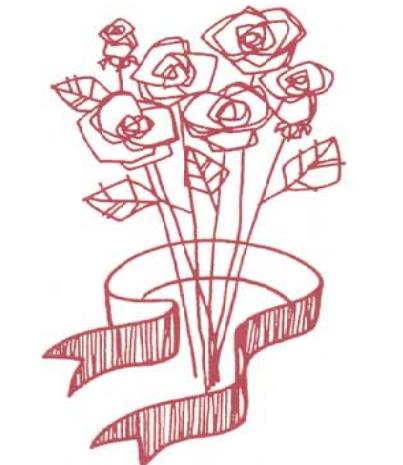
大城 宜武(教職員) 70,000

パイプオルガン献金

儀間 盛夫(同窓生)	50,000
藤田久雄・栄子(宗教関係)	10,000
原 喜美(教職員)	57,000
沖縄福音連盟新年聖会	30,000
'99レーナ・マリア コンサートin沖縄	200,000
(カナンキリスト教会)	5,000

全島朝祷会

(カナンキリスト教会) 5,000

**1999年度後期行事予定 10月1日～3月31日**

10月 4日(月)	講義開始 10月入学式・始業式 4日(月)～9日(土) 登録調整期間 18日(月)～30日(土) 保育実習Ⅱ・施設実習Ⅱ (保Ⅱ)	2月13日(日) ～3月5日(日) 海外研修(Hawaii)
11月11日(木)～12日(金)	宿泊セミナー(1年次就職ガイダンス)	3月1日(水)
17日(水)～23日(火)	※キリシム祭(本祭典20日(土)～21日(日))	10日(金)
17日(水)	2000年度推薦入学試験A 日程	13日(月)
20日(土)	クリスマスツリー点灯式	15日(水)
12月11日(土)	高校生英語弁論大会	17日(木)
13日(月)～17日(木)	キリスト教週間	23日(木)・27日(月)
18日(金)	クリスマス礼拝・祝会	24日(金)
22日(水)	講義終了	27日(月)
冬季休業期間 24日～1月4日		
2000年 1月 5日(水)	講義再開	
8日(土)	TOEFL-ITP TEST[英Ⅱ]	
10日(月)～14日(金)	放送大学(前期受講者受付)	
14日(金)	学内英語弁論大会	
29日(土)	講義終了	
31日(月)	～2月5日(土) 期末テスト期間	
2月 9日(水)	一般入学試験	
10日(木)	～3月20日(月) 施設実習Ⅰ(保Ⅰ)	
28日(火)		
30日(木)		

同窓会だより**“キリシム祭”バザーのお知らせ**

同窓生や在学生との交流と資金造成を目的として、次のとおりバザーを開催します。
多くの同窓生の方のご参加をお待ちしています。(実行委員長 花城安夫)

■日時：11月20日(土)・21日(日)

11時00分～21時00分

■場所：キリシム大 南棟1-1教室

■内容：バザー・喫茶・焼き鳥

～卒業写真の展示あり～

*引き出物(物品)等がありましたら提供をお願いします。

**同窓会グランドゴルフとバーベキュー
(懇親会)の案内**

同窓会の役員・各期の評議員等を中心にグラウンドゴルフを開催します。同窓会員はどうぞご参加ください。(実行委員長 前里光信)

■日時：10月31日(日) 15時00分より

■場所：キリシムの中庭

連絡先：沖縄キリスト教短期大学

総務企画課 津嘉山 946-1231